

大津百町瓦版

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

新年号 [No. 42]

2020年 1月

発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636

Email: otsu.machiya@gmail.com



大津・近江を描き続け

このちよつと古そうな町家、町並みの絵はご存知の方も多いことと思いますが、大津はもとより近江のいろんな所で、暮しのある風景を長年描き続けておられる福山聖子さんの作品です。大津百町の古いお家の並んでいるところ何処かお分かりですか？山の上に三井寺観音堂が見えます。

「この絵に添えられた福山さんの文です」

「長等山と町家」

建て変わりゆく家なみの一角に、陰影を帯びた町家がとどまり並んでいた。長い歳月、雨風日差しにさらされ、一枚一枚が微妙に色を変えた瓦の美しいこと。黒々とした格子窓が、老人のような味わい深い建物の表情をつくっている。

町家の前の、かつて旅人が往来した街道は、生活道路としてランドセルを背負った小学生や、補助車を押して歩くお年寄りなどが通りゆく。軒先に置かれた花に足を止める女性がいる。昆虫やさんで買い物を終えた客が出てくると、店の奥から「おおきに、ありがとぅございました」と威勢のよい声が表にまで響き渡る。長年変わらず、あたりまえにそこにあった風景が、とても貴重でいとおしく思えてくる。

通りを飛び交っていたツバメが電線ですと休みみしてから、長等山の方へ飛んでいった。山の上の観音堂だけが、まちの変遷を見守り続けている。 二〇一六年六月 福山聖子

この添えられた文を読むと福山さんの町家への思いが伝わってきます。 「瓦版編集部」